

# ICT施工で人材獲得

建設・土木業  
岡崎組(宮崎市)



若手や女性の人材獲得を目指し、岡崎組が開催したICT施工の見学会＝7月13日、宮崎市

建設・土木業の岡崎組（宮崎市、岡崎勝信社長）は、情報通信技術（ICT）を使った「ICT施工」を活用し、若手や女性の人材獲得に取り組んでいる。これまで「きつい、汚い、危険」の3K職場の代表格で、経験や専門的知識が不可欠だった現場が、自動制御の建設機械の導入などで様変わりしていることを見学会などでPR。生産性向上による働き方改革にもつなげたい考え。

## 「3K」改善 若手、女性にアピール

みやぎん経済研究所などによると、雇用者数が「過剰」から「不足」を差し引いた雇用者数の現状DIは、6月期（4～6月）の建設業がマイナス60で、サービス業に次いで人手不足感が強い。

国土交通省は2015年ごろから、ICTを建設現場に導入する「i-Construction（アイ・コンストラクション）」を推進。同社も3年ほど前から小型無人機「ドローン」やレーザー測量機などを購入し、ICT施工の割合を高めてきた。

ICT施工ではまず、ドローンなどで現場の3次元データを取得する。専用ソフトがデータを処理して設計図を製作。削り取る土の量や範囲などの施工データを自動制御の建設機械に送れば、機械がほぼ自動で工事を行う。

ICT施工では炎天下で行っていた屋外の作業が大幅に短縮。測量や設計、施工の一部で熟練の技術が不要となる

ため、若手や女性の活躍の場が大きく広がっている。同社では施工管理者が行っていた比較的簡単な作業を若手や女性が肩代わりすることで、業務全体の効率化にもつなげているという。

同社は先月中旬、宮崎市の河川敷で、求職者を対象にしたICT施工の見学会を開催。若手や女性を中心に計14人が参加し、ドローンや自動制御のバックホーの操縦などを体験した。また、女性が好むデザインの求職案内を制作したり、女性向けのインターンシップなども開催したりし、新たな雇用の採用に取り組んでいる。

同社企画課は「建設、土木の現場が大きく変わってきていることはあまり知られていない。時短勤務やアルバイト、パートなど多様な働き方ができる職種として認知されるようPRを強化したい」と話していた。

（奈須貴芳）